

デザインとネットワークの実践報告

北陸学院中高等学校 辰島裕美

asinfo@spacelan.ne.jp

0.はじめに

北陸学院は幼稚園から小・中・高・短大までの私立の学院で、中学校は各学年 2 クラスの小規模な中学校である。総合科として週 1 時間、1 年次でコンピュータに慣れる、2 年次で自分の考えをまとめて発表することを主題とした 2 年間の授業をしている。学院内で、高校で教科情報と選択科目の情報演習、短大の一部の学科で情報機器演習を担当しており、中学から高校・短大へと、一貫教育を目指しているものの、満足のいく授業内容へはまだ達成していないが、一つのケースとして発表させていただきその場で、先輩諸氏からの改善案やご指導をいただければ幸甚である。

1.きっかけと計画

この年の中学 1 年 B 組は 30 名の女子のみのクラスだが、導入期に通常のキーボード練習の後、ペイントが好まれ集中度の高さが特徴だった。中には、自分のホームページを持っている生徒や、小学校でホームページを作った経験がある生徒も数人おり、それらがリーダー役となって他の生徒が追随するよい形があった。Microsoft PowerPoint を使っての得意料理のレシピ作成でも、ペイントを使い自分で描いたイラストを貼り付けるなど、色々な工夫に挑戦する傾向が見られた。2 年次ではこの興味関心と能力をさらに高めて自己表現することをテーマとした。Microsoft Word の“グラフィック機能”を利用する単元で自宅や学校周辺の地図を作成する際、地図記号やマークをペイントで一人 3 個作成し、共有フォルダに保存、友人の作ったマークも利用して各自の地図を仕上げる活動を起案した。PC の操作経験の少ない生徒には、ほかの生徒のマークも利用できるのだから心強い楽しい活動に、またデザインスキルの高い生徒は、人に使われることによってその能力を発揮できる場に、また、クラス全体で沢山のマークや記号を蓄積して、シェアすることを通して協力とマナーを学ぶ、そこから、ネットワークの考え方につなげる、というプランで、実行した。

2. 授業シラバスと実行の報告

時間	内 容
1	・LAN と概要の説明・プランニング
2・3	・地図のマーク作成
4・5	・ワードで地図を製作
6	・相互評価・デジタルワークシート
7	・著作権とインターネットのマナー

1 回目の授業内容の様子 教室内の LAN について、隣接のコンピュータ準備室のサーバとは LAN ケーブルでつながっており、自分が操作する以外のコンピュータにアクセスできることを体験。同時にアクセス権の話も加え、学校内および、組織での LAN の基礎知識を講義。次に活動の概要を説明、どのような地図を作るか、それにどのような地図マークが必要か、各自プランニング。

2 回目 ペイントの基本操作説明でキャンバスを 2 センチ四方に設定した後、「拡大と縮小ツール」を使う方法が、生徒の間で伝染して広がった。地図記号のアイデアが湧かない生徒にはサイトで検索(キーワード「地図記号」「トレードマーク」など)するが、効果なく、どうするかよりも何を作りたいかがわからない状態。

3 回目 授業開始時、すでに作ったものを互見ると、デザイン性が高いもの、リアルな描写のマーク、かわいいもの、おもしろいマークなどが見られ、つられて意欲が高まる様子が見えた。生徒の頭の中が、現実の建物や町並みから、バーチャルな方向へと向いた。中には映画に出てくる通りや店のマークを作った生徒もいる。

4 回目 Word のグラフィック機能を簡単に説明、図形を組み合わせて道路を作った後、地図記号をスタンブ代わりに挿入。製作途中で、足りない地図記号を追加製作する生徒もおり、「だれか、信号を作って!」「自販機があったらいいな」などの声、それに応えて張り切る生徒がいて協力的な熱気高まるムードになった。反面、ペイントの苦手な生徒は、自分で作ったものをすぐ消してしまう生徒が 1 名いた。(高いスキルを持つ生徒を

称えながら、苦手な生徒には、失敗しても何度でも簡単にやり直しできるのが PC の利点と、激励はしたものの、プライドと劣等感を併せ持つ少女達への指導の難しさを感じた。)



5 回目 Word での地図作成は仕上げの段階だが、「もっとやりたい、まだまだ時間が足りない」という声が多かったが、出来上がった生徒は 2 作目を作り出した。

6 回目 ディスプレイに自分の作品を表示し、人間がパソコンを巡って友人の作品を鑑賞。時間の後半、デジタルワークシートに感想・反省・今後の目標を記入。

デジタルワークシートから

< みんなのマークや自分のマークが使われた気持ち >

自分の作ったマークを使ってくれる人がいて、とても気持ちがよく、すごくうれしかった。

使ってくれている人が何人かいたのがうれしかった。

みんなのマークは誰にでも使えそうな物が多かった。

みんなとても細かくて上手だった。絶対使いたいと思うものがありました。自分のマークが意外な所に使われてちょっとうれしくも思いました。

実用性のない私のマークが使われてうれしかった。

使われないかと思っていたのに自分のマークが使われてうれしかった。かわいいのもあれば、面白いのもあったので、みんなで作ったらいろいろ集まると思った。

ほかの人の作品を見るのは、とてもいい勉強だった。

他の人が作ったマークを自由に使えてよかったと思う。みなさん、いいもの作ってくれてありがとう。

自分のマークが使われたのを見て、役に立ったんだなぁ…って思ってホントに良かった。

意外なところに使ってあったり、自分なりにアレンジしてあったり、作ったときの気持ちと違った使われ方を見ていてとてもおもしろかった。

< これからの自分の課題など >

わかりやすく、見やすく、詳しい文章や地図などを作っていたらいいな。

これからは、もう少し、創造力を練ってなんでも取り組みたいです。みんなに遅れないように、先生の話をもっとちゃんと聞いて、もっとインターネットや、コンピュータの使い方の、知識を増やしていきたいです。

みんながとても上手だったから、刺激を受けました。今度からは教えてもらったことを最大限に生かして、もっといろいろすごいものにしたい。がんばるぞ。

もっと私もみんなが使えるようなものを作りたい。

絵を描く時にいろいろと分からない事があったが克服できたので、次に活用できるといいなと思います。

すばやく、丁寧に作品をつくるのがこれからの私の目標です。

人の役に立てるようになりたいです！

時間のことを考えながら、ていねいにやりたいです。

7 回目 デジタルワークシートの集計分析を生徒に話し、著作権へと話を進めることができた。また、インターネットは見えない相手を尊重しながら互いに気持ちの良いマナーやモラルが暗黙のルールであると学べた。

3.考察

6 回目に記入させたデジタルワークシートに見られるように、今回の活動では個人個人で作ったものを貯めていく時点で盛り上がり(先述のふてくされ気味と、わが道を行くタイプの 2 人が例外)、共有物として気に入ったものを自由に使え、そして使われた喜び、人の役に立てた喜びが、非常に多く感想としてあげられた。ひいては、今後の課題もかなり前向きで向上心あふれるコメントが全員に見られたことは特筆したい。協力と自分の作品に満足感を得られる活動が、今後の意欲に直結することは想像し易い。優れた点を伸ばし、意欲を高め、苦手にも挑戦する気持ちをも引き出すことができた。世の中では、インターネット絡みの事件が多く、自己防衛手段の解説が暗いムードになるが、いい使い方を体験させることができた。今回はじめて利用した“デジタルワークシート”は、マークを挿入してコメントを書くことが、振り返りに有効なツールであることが分かった。